

「能勢清流工房」を訪問して

春団治祭りの時のテントが隣り合わせになったのが縁で清流工房の方と知り合い、交流の一環として、7月20日に訪問させて頂きました。池田の駅から30分でNPO法人「能勢清流工房」に到着、代表の前田さんと仲間の方たちが笑顔で迎えて下さいました。「能勢清流工房」は過疎化が進む町で地域の方々と一緒に町おこしをし、農業と多角的な文化活動を行っている団体です。



挨拶後、前田さんの案内で歩いて10分ほどの所にある久佐々神社にお参りました。711年建立の神社は荘厳な雰囲気、朝廷に食器を献上していた事実からこの地が古くから開けていたという事を教えて頂きました。その後農園に行き土作りから努力されている事を聞き、無農薬の野菜作りがどれだけ大変かこだわりを持って作っておられる姿に感動しました。

工房に戻り食事を頂きました。野菜中心の料理はこの時期の私たちへの体調に合わせて考えていて美味しく、心のこもった献立で食べきれないほどの量でした。食事後、食の大事さを訴え世界中の貧困の子供たちを救うために活動されている方のお話や、米作りをされている方、高校の先生など日本の現況を憂える方たちのそれぞれの立場での話を伺う事が出来て良い勉強になりました。栽培されている野菜を用意して下さいて購入しました。

コーヒーを頂き、お抹茶とお菓子をご馳走になりながら楽しい時間を過した後帰宅の途に着きました。帰り道豆腐の美味しい店と道の駅に寄り帰りました。清流工房の皆様、ありがとうございます。能勢の自然を満喫出来た良い時間でした。(吉田光代)

7月度映画鑑賞同好会「風立ちぬ」のこと

酷暑と大雨が裏表の如き現象が続く7月末日、7月度の映画鑑賞同好会を開催。鑑賞の映画は、皆さんの希望もあり、また前評判の大変高い、ジブリの宮崎駿監督の「風立ちぬ」。



太平洋戦争当初、米軍から空の悪魔と恐れられた零式艦上戦闘機の基本設計者の堀越二郎自身と、戦前から文学少女の必読書の如き、堀辰夫著「風立ちぬ」と「菜穂子」から肺結核に冒されている女主人公のエピソードを巧みに取り出し、事実とフィクションを画面に塗りこめ、関東大震災を含む当時の世相とその環境の中、青年の大きな夢の実現と、青年と若き女性の愛に満ちた触れ合いを見事に描いた秀逸の

映画である。宮崎監督として初めてとあってよい大人用のアニメ映画と言えるだろう。本来宮崎監督はその根底に不戦の気持ちをしかりと持ってアニメ映画づくりをしてきた人だが、この映画の中で、ゼロ戦という武器の設計プロセスも忠実に追いながら、純粋な若い男女の愛の形をもしっかり訴えている。その過程で描かれる、日本の自然の美しさなどがさらにこの2人の愛の高まりに見事にハーモニーしている。皆さんその内容の高さに満足されたのではないだろうか。お勧めしたい映画である。今回は計15名の方が参加され、ご夫妻で鑑賞された方もあった。(高橋俊雄)